

令和6年10月1日

報道機関各位

地域生活文化課

国際音楽交歓コンサート2024の開催について

世界有数の音楽院出身者等をはじめとする一流の国際的音楽家による『国際音楽交歓コンサート2024』が青森市で開催されますので、報道方について御協力をお願いいたします。

記

1 開催日時 令和6年10月7日（月） 午後6時30分開演（午後6時開場）

2 開催場所 リンクモア平安閣市民ホール（青森市民ホール）

3 演奏曲目

・ビゼー：「カルメン」より“闘牛士の歌”（バリトン、ピアノ）

・マスネ：タイスの瞑想曲（ヴァイオリン、ピアノ）

・ショパン：バラード第1番 作品23（ピアノ）

・バッハ：G線上のアリア（チェロ、ピアノ）

・ショパン：ポロネーズ第6番 作品53「英雄」（ピアノ）

・ヘンデル：「リナルド」より“わたしを泣かせてください”（ソプラノ、ピアノ）

等

※入場については事前申込制となっております。

※報道関係者については当日スタッフが御案内します。

報道機関用資料提供（連絡先）		
担当課	交通・地域社会部 地域生活文化課 文化スポーツ・NPOグループ 担当者名 総括主幹（GM）西川 司信 主幹 三上佐知子	
電話	内線	2661、2663
番号	直通	017-734-9207
報道監	交通・地域社会部 次長 奥田 昌範	

# 国際音楽交歓コンサート 2024

## INTERNATIONAL MUSIC EXCHANGE CONCERT



Piano  
山本 隆夫  
やまもと たけお

Piano  
山本 隆夫  
やまもと たけお

Britone  
山本 隆夫  
やまもと たけお

Soprano  
山本 隆夫  
やまもと たけお

Violin  
山本 隆夫  
やまもと たけお

Cello  
山本 隆夫  
やまもと たけお

Piano  
山本 隆夫  
やまもと たけお

# 井村屋 謹製 たい焼き

あんが自慢の和菓子の老舗井村屋が作る  
本格薄皮たい焼き



おすすめ！  
電子レンジで温めた後、トースター調理でサクッと香ばしい、まるで焼き立てのようなおいしさ

！好評発売中！



### つぶあんたっぷり！本格薄皮たい焼き

**【あん】**  
北海道産小豆とココクが豊かな砂糖を使用して炊きあげた風味豊かなあん。時間をかけて丁寧に蒸み成分を取り除き、風味・とろみ・粒感を大事にこだわりの製法で炊きあげました。頭から尻尾の先まであんをたっぷり包んだ満足感のあるボリューム。

**【生地】**  
米粉をブレンドしたこだわりのサクッと食感。はちみつを加えて香ばしく焼きあげました。

井村屋謹製 たい焼き(つぶあん)

おいしいの笑顔をつくる  
**井村屋株式会社**  
〒514-8530 三重県津市青葉七丁目1番1号

主催 公益社団法人 国際音楽交流協会  
TEL (075) 414-1311 FAX (075) 432-1311  
http://www.imea.or.jp/

# 国際音楽交歓コンサート2024

- 9月25日(水) 新潟県・柏崎市 柏崎市文化会館アルファホール・大ホール  
28日(土) 山梨県・甲府市 YCC県民文化ホール・小ホール  
10月 1日(火) 神奈川県・相模原市 相模原市市民会館  
3日(木) 福井県・福井市 福井市市民会館  
5日(土) 愛知県・稲沢市 名古屋文化センター・大ホール  
7日(月) 青森県・青森市 リンクモア平安閣市民ホール  
15日(水) 静岡県・浜松市 西部特別支援学校・浜松特別支援学校  
16日(木) 静岡県・浜松市 浜松特別支援学校・浜北特別支援学校
- 主 催：公益社団法人 国際音楽交流協会 (会員) 本願寺 井村屋グループ株式会社 ダイキン工業株式会社 大阪ガス株式会社 影近設備工業株式会社 株式会社大原の里
- 協 賛：  imuraya group

- 後 援： 総務省 外務省 厚生労働省 文化庁 こども家庭庁 社会福祉法人全国社会福祉協議会 一般財団法人自治体国際化協会 公益財団法人日本ピアノ教育連盟

- < 新潟公演 >  
特別出演/ 柏崎少年少女合唱団  
■地区主催：新潟県 柏崎市文化会館アルファホール (公財)柏崎地産国際化協会 令和6年度にわたる芸術文化育成プロジェクト実行委員会  
■地区共催：新潟日報社  
■地区後援：新潟県教育委員会、柏崎市、柏崎市教育委員会 (公財)柏崎地産国際化協会 (一社)新潟県商工会連合会、新潟県商工会連合会 柏崎商工会議所、NHK新潟放送局、BSN新潟放送局 NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UK新潟テレビ21
- < 山梨公演 >  
特別出演/ 甲斐清和高等学校音楽科  
■地区主催：山梨県  
■地区後援：山梨県教育委員会、甲府市、甲府市教育委員会
- < 相模原公演 >  
相模原市市制施行70周年記念  
■地区主催：相模原市  
■地区共催：キオク・アクト・コンティググループ
- < 福井公演 >  
■地区主催：福井県 (公財)福井県文化振興事業団  
■地区後援：福井県教育委員会

- < 浜松公演 >  
■地区主催：浜松市 (公財)浜松市文化振興財団
- < 大分公演 >  
■地区主催：大分県  
■地区共催：(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団
- < 岐阜公演 >  
特別出演/ 岐阜県立大垣高等学校校合唱部  
[清流の国まふ.]文化祭2024  
■地区主催：岐阜県 岐阜県教育委員会
- < 京都公演 >  
■地区主催：京都府  
■地区後援：京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会 京都音楽クラブ 京都新聞 毎日新聞京都支局 朝日新聞京都総局 読売新聞京都総局 産経新聞社京都総局

- < 三重公演 >  
特別出演/ セントヨゼフ女子学園高等学校校合唱部  
Imuraya presents ■地区主催：井村屋グループ株式会社 ■地区共催：レディオキューブFM三重
- < 愛媛公演 >  
今治市合併20周年記念事業  
■地区主催：愛媛県教育委員会 ■地区後援：愛媛県教育委員会 今治市教育委員会
- < 広島公演 >  
■地区後援：広島市教育委員会 公益財団法人広島市文化財団
- < 青森公演 >  
■地区主催：国際音楽交歓コンサート2024 開催事業実行委員会 青森県、青森市教育委員会、青森県教育委員会 青森県高等学校文化協議会、青森県合唱連盟、青森県音楽連盟
- 助 成：公益財団法人むつ川川原地域、産業振興財団 ■地区後援：東奥日報社、テニール・東北新聞社 陸奥新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、エフエム青森、青森ケーブルテレビ

# プログラム

プログラムは予告無く、特別出演の有無や終演時間の都合等により変更になる場合があります。また、付随事業等は別プログラムとさせていただきます。

## グエン・カック・ホア (バリトン)、フランチェスコ・チポレッタ (ピアノ)

- 「セルセ」より「オンブラ・マイ・フ」/ ハンデル
- 「カルメン」より「闘牛士の歌」/ ビゼー
- オー・ソレ・ミオ / ディ・カポア

## アンドレア・ベルティエーノ (ヴァイオリン)、フランチェスコ・チポレッタ (ピアノ)

- チャルダッシュ / モンテ
- タイスの瞑想曲 / マスネ
- ハンガリー舞曲第5番 / ブラームス

## フランチェスコ・チポレッタ (ピアノ)

- バラード 第1番 作品23 / ショパン
- プレリュード 第7番 作品28 / ショパン
- エチュード 作品10-5 「黒鍵」 / ショパン

## ジャック=ピエール・マラン (チェロ)、アレクサンドル・ゾラタレフ (ピアノ) 又は フォルカー・ツヴェエチケ (ピアノ)

- G線上のアリア / バッハ
- タランテラ / ポッパー

## アレクサンドル・ゾラタレフ (ピアノ)

- プレリュード 作品23-5 / ラフマニノフ
- ボロネーズ 第6番 作品53「英雄」 / ショパン

## フォルカー・ツヴェエチケ (ピアノ)

- 平均律クラヴィーア曲集 第1巻 第1番 / バッハ
- エチュード 作品25-12 「大洋」 / ショパン
- エリゼのために / ベートーヴェン
- プレリュード 作品23-5 / ラフマニノフ

## スターシャ (ソプラノ)

- 「ラ・ボエーム」より「ムゼッタのワルツ」/ ブッチーニ
- 「リナルド」より「わたしを泣かせてください」/ ハンデル
- グォラレー / モドゥーニョ
- 「リゴレット」より「そうだ、復讐だ」/ ヴェルディ

# クラシックで楽しいな!



当協会では、より多くの皆様へクラシック音楽を身近に感じて頂くことを目的に、クラシック音楽に関連する面白い情報を掲載したパンフレットを作成し、日本全国約1,250箇所の音楽ホールや当協会主催事業等の会場、当協会のホームページ (<http://www.imea.or.jp>) を通じて広く国民の皆様へ配布しています。このパンフレットは至くしの公益法人助成事業(社会貢献広報事業)として一般財団法人日本至くし協会より助成を受けています。

2023年 発行

【音楽家編】

【オペラ編】

【珍楽器編】

【楽譜編】

【楽譜編】



◆ ピアノ

フレデリック・ショパン (1810-1849)

「バラード 第1番 作品23」

歴史的状況におかれた時期1831年から1835年にかけてパリで作られた。劇的な要素を多分に含む。

「24のプレリュード前奏曲集 第7番 イ長調 作品28-7」

1975年から2011年頃まで、太田胃散のCMとしてテレビ等で流れていたため、多くの人は聞いたことがある。本曲の曲名は知らず、太田胃散の曲だと思っていたことも多い。なお、イ長調の曲なので、「胃腸」ともかかっていて、面白。穏やかに気品溢れる名曲なので、この曲を聴くだけで、薬を使用しなくても胃腸が良くなる人が、たかとも知らない。

3拍子の16小節で、だいたい30秒〜50秒くらいの曲なのでコマースャル(30秒)にもぴったりである。

「エチュード 作品10-5 “黒鍵”」

練習曲ではあるが音楽的にも完成された作品である。変ト長調で作られたこの曲は、右手による主旋律の全てが(第66小節の3拍目のハ音を除いて)黒鍵によって演奏されることからこの通称がつけられている。華やかな曲で演奏機会も多い。

「ポロネーズ 第6番 作品53 “英雄”」

1842年に作曲されたが、最も売れた作品を数多く残した時期で、ショパンの最高傑作のひとつである。非常に男性的で力強く、英雄ポロネーズの英雄はナポレオンだと言われているが、「英雄ポロネーズ」のタイトルを付けたのはショパンではなく、誰が付けたのかは現在不明である。

「エチュード 作品25-12 “大洋”」

1835年に作曲された。2分の2拍子の曲で、両手の分散和音で低音から高音へと駆け上がり、高音から低音へと一気に駆け下りてくる。急速に上下下行を繰り返す。フォルテやフォルテッシモなど力強く演奏され、最も強いフォルテッシモで終る。「英雄」と同じく、こちらも「大洋」は俗称である。

セルゲイ・ラフマニノフ (1873-1943)

「プレリュード 作品23-5」

貴族の家の子としてロシア帝国に生まれた。莫業が没落しても、奨学金を得てサンクトペテルブルク音楽院に入学。のちにモスクワ音楽院に転学した。十月革命後、家族と共に出国したラフマニノフは、故国に戻ることもなく、ヨーロッパ、アメリカを転々として活動場所とした。1年後の勢力拡大によってヨーロッパを退かれ、アメリカに移り住んだ1年後のロシアのアリアのビバークルズで、ガンのために流石に瀕死の生還を聞いた。クレムリンの「凶悪の種」第2曲中、第1番目の前奏曲である。ラフマニノフの魂の音にインスピレーションを受けた作品とされ、「鐘」または「モスクワの鐘」などの愛称で親しまれている。彼の作品は、短調のものが多く哀愁がこもっている。

ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685-1750)

「平均律クラヴィア曲集 第1巻 第1番」

18世紀のドイツで活躍したバロック音楽の重要な作曲家の一人で、西洋音楽の基礎を構築した作曲家である。日本の音楽教育では「音楽の父」と称された。

バッハの時代にはピアノはまだ普及しなかったため、作品はチェンバロやクラヴィコードのために書かれたものである。2巻あり、長短24調による48の前奏曲とフーガで構成されている。1巻の1番は、ハ長調の前奏曲とフーガである。また、この前奏曲の伴奏に使って、その上に美しいメロディーをのせたのがフーガの作曲家グノーの「アヴェ・マリア」である。バッハが作曲してから100年以上経てから、この前奏曲が出来上がった。

「エリーゼのために」

誰の為に書いた曲かは諸説あるが、ベートーヴェンが40歳の時、エリーゼは19歳でベートーヴェンのプロポーズを拒絶したということが伝えられている。また、ベートーヴェンが好きだったエリザベートがフンメルと婚約したのは1810年4月。そして「エリーゼのために」が書かれたのが1810年4月27日。ほのかな哀愁感たっぷり「エリーゼのために」は、エリザベートのお別れのプレゼントだったのかも知れない。技術的には余り難しくないで、子供でも演奏することも多いが、内容は全体的にしっとりとした感傷的な和音・メロディーで、深みのある曲である。

◆ ヴァイオリン & ピアノ

ジュール・マスネ (1842-1912) 「タイスの瞑想曲」

フランスの作曲家である。オペラ「タイス」の間奏曲である「タイスの瞑想曲」は、ヴァイオリン独奏曲としても人気があり、誰もが知っている優美なメロディーである。しかし、そのオペラを知っている人は少なく、婚姻と修道僧の愛憎物と聞くと驚く人も少なくないだろう。

ヴィットーリオ・モンテディ (1868-1922) 「チャルダッシュ」

モンテディは、イタリアの作曲家で、生まれ故郷のナポリでヴァイオリンと作曲を学び、晩年は指揮者としてパリやヴェネチアで活躍した。この曲は、チャルダッシュ以外の曲はあまり知られていない。チャルダッシュは、「南場風」という意味のハンガリー音楽ジャンルのひとつで、19世紀にはウイーンをはじめヨーロッパ中で大流行した。あまりの人気にウイーン宮廷で「チャルダッシュ禁止条例」が出たほど。多くのジプシー楽団もチャルダッシュをレパートリーにしている。元々はマンドリンのために書かれていたが、ヴァイオリンやチェロの超絶技巧曲としても愛されている。ハンガリー音楽特有のラッサン(ゆたつとした部分)とリスカ(はやり部分)の2部構成になっている。特にリスカは高速のステップ、フラジレット(装飾器の奏法)等々の超絶技巧が見せ場になっている。チャルダッシュは、フィキエラ等々の超絶技巧が見せ場になっている。チャルダッシュは、フリーに使用する曲としても注目された。16歳の浅田真央の演技を思い出した方もおられるのではないだろうか？

ヨハネス・ブラームス (1838-1897)

「ハンガリー舞曲 第5番」

ブラームスの「ハンガリー舞曲」は全部で21曲あり、第5番は最も有名な一曲でナクネクトラにも編曲されて親しまれている。アレグロ、4分の2拍子の3部形式である。

ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685-1750)

「G線上のアリア」

バッハは西洋音楽の基礎を築いた作曲家であり、音楽の源流であると言われ、日本の音楽教育では「音楽の父」と称された。原曲は管弦楽組曲第二長調第3番の2曲目「アリア」である。

後にヴァイオリン独奏曲として編曲され、ヴァイオリンのC線のみで演奏出来るようになってから「G線上のアリア」として親しまれるようになった。穏やかに優雅で荘厳で、あまりにも美しく有名なので、様々な楽器やパターンに編曲されている。

「タラントラ」

舞曲風の楽しい曲。チェロとともに軽快で楽しいな舞曲風のメロディーを演奏する。そして、その後、穏やかな雰囲気となるが、次第に高揚感を増して行くと、チェロが軽快な演奏を展開し、最後は華やかに終演する。

◆ ハルトン & ピアノ

「オズワルド・マイ・ラブ」

ヘンデルは、1685年ドイツに生まれ、ドイツに帰化した。彼が生まれた一か月後、同じドイツに「S」が誕生している。ヘンデルはオペラオラトリオ、バッハは教会音楽を多く残し、後期バロックの代表的作曲家となった。このオズワルドのイタリア語による作品。「オズワルド・マイ・ラブ」は古代ペルシアの王、クセルクセス(セルセ)の物語を題材にしたオペラ「セルセ」の第1幕の冒頭で主人公クセルクセスが歌ったアリアである。

この「セルセ」は後に「ハンデルのラルゴ」と呼ばれるようになっ大変有名な曲。日本ではアメリカ出身のソプラノ歌手のキヤッソン・ソバノが「セルセ」のCMでこの曲を歌ったのが大きな話題となり、クラシックのファン以外にも広く知られるようになった。大変短い曲だがグラタナスの木陰への愛を歌ったもので、甘美で天國的な美しさを湛えた素晴らしい曲である。歌詞は「いまだかつてなかった」としく、優しく、とても心地よき木の陰よ

「闘牛士の歌」

「闘牛士の歌(諸君の驚愕を受けよう)」は、ビゼーの歌劇「カルメン」の劇中歌。闘牛士エスカミーリョ(バルトロン)が高らかに歌い上げる有名なアリア。

ビゼーによる全幕のオペラ。プロスペル・メリメの小説「カルメン」を基として、音楽(歌)の間を台詞でつないでいくオペラ・コミック様式で書かれている。

1875年(後)のオペラ・コミック座で初演されて不評であったが、ビゼーの死後オズボネ・ギョーにより台詞を改作して上演され、人気を博すようになった。

「オー・ソレ・ミオ」

オー・ソレ・ミオの意味は私の太陽。1898年、ジョバンニ・カプッチョ(1859-1920)作詞、エドゥアルド・ディ・カプア作曲として発表された。最近の書籍では、ディ・カプアとアルフレッド・マッツォカ(1878-1972)作曲とされている。事情が有ったが、その事実が明らかになったのは1972年だった。歌詞は「太陽が輝く日は、なんと美しい、嵐のあとと遠くはさきやかな空気が、お祝いの日は、なんと美しい、お聴きください。」

ジャコモ・プッチーニ (1858-1924)

「ムゼッタのワルツ」

「Quando me n'vò(私が街をあるけ)」はイタリアを代表するオペラ作曲家であるジャコモ・プッチーニのオペラ「ラ・ボエーム」で、ムゼッタ(プッチーニ)によって歌われる。恋人マルチェットと別れたムゼッタがカフェ「モニエ」でマルチェットを見かけ、マルチェットが自分と別れたことを後悔するように、自分の魅力について歌う。

「私が街を行くと、人は立ち止まり私を感嘆し、私を包み込む。あなたは、何となく、私の顔を覗き込んで、私から遠く離れてよわわわ。苦しみの気持を言いたくないのね。死ぬ程の思いのね。」

「わたしを泣かせてください」

1711年25歳の時に作曲したオペラ「リナルド」の第2幕で歌われたアリア「イタリアの詩人」ルクアット(1544-1595)が書いた叙事詩「解放されたエルサレム」を原作としたオペラ。ヘンデルは過去の自分の作品から音楽を転用しつつも、2週間という短期間で、このオペラを書き上げたといわれている。物語は「1世紀後半の第1回十字軍遠征を舞台としたキリスト教騎士とイスラム教徒の戦い」とエルサレム奪取が描かれている。エルサレムのイスラム側の魔法使いの囚われの身になった十字軍の将軍リナルドの許嫁、アルシレーナが戦軍の王アリアンデに愛されるが、愛するリナルドへの貞節を守るため「奇蹟な運命に涙を流しよ」と歌うアリア。どくどく泣くことをお許しください。この過酷な運命に、どうか自由にあこがれることをお許しください。わが恋しきは、打ち解く愛を離れられぬまま、離れささめも受けられないのであれば、イギリ人たちに認められ愛されたこの作品はヘンデルの生前に絶賛され、大成功を取った。今なお、世界中で歌い続けられる名曲となっている。

また、この曲は1994年に製作された、実在したロック時代のカストラト歌手フアン・ペドロの生涯を描いた伝記映画「Farrinelli Il Castrato」(邦題「カストラト」)でも使用された。

「グオアラレ」

1958年「第8回 イタリア・サンレモ音楽祭」での優勝曲である。イタリアのカンツォネーリであるトメ・ニコ・ニコ・ニコという曲のタイトルを、世界的に発売するために、「Volare Di Blu」というタイトルで売出したカンツォネーネである。

「さあ、飛ぼう。さあさあ、歌おう。背に塗られた青の中で、この空にいられる幸せよ。」と、イタリアの青い空をたたえ、「人生(世界)がいかに素晴らしいか」ということを語っている。

「もうだ、復讐だ」

ヴィクトル・ユゴーの戯曲「王は愉しむ」を原作としている。ストーリーは重々しい内容で、この世の不条理を描いている。

ヴェルディが1851年(江戸時代)37歳の時に作曲した、26のオペラの中の17番目の作品である。それまでは、身分の高い人が主人公だったのが、普通の立場の人間を主人公にしている。女たらしのマンバ侯爵、背比べの男リゴレット(侯爵の道化師)、リゴレットの美しい娘16歳のシルダ。リゴレットはシルダに教会に行く以外外出を禁じていた。こころが、侯爵は教会に美しい娘が来ていることを知り、シルダに自分も負い学生である、と偽って近づくと、シルダはシルダの愛人だと認めて、口説いた。シルダは知り、侯爵を許さず、シルダは、父親に、好きになっしまったから侯爵を許してあげて、と、懇願するが、父親は許さない、と言う。そのやりとりで二幕最後の二重唱になる。父と娘の愛について深く描かれた作品で、世界中で上演されている。